

織機メーカー 渾身の一品

日本省力機械（大阪府茨木市、辰村周平社長）は、独自技術を使ったタペストリー「ネオタピス」の販路を拡大する。国内は百貨店を中心に販売し、海外では2024年1月にフランス・パリで開かれるインテリア関連の展示会「メゾン・エ・オブジエ」に出展して欧米や中東への販路を築く。

現在、高島屋と24年春をめどに取り扱いに向けて交渉している。向けて交渉している。場所や取り扱うイベントなどは今後詰める。

これまでの実績では、大丸の催事スペースでの展示や店舗とは別の施設で一般向けに開く家具関連の展示会で紹介された。また、大丸外商部門がホテルで宝飾や時計、着物などの高級品を富裕層向けに紹介する展示会にも出展した。「大丸が扱っているという信頼感」（辰村社長）を武器に、販路拡大を見込む。阪急百貨店でも常設展示などで取り扱われた実績がある。

タペストリーは、大阪府がモノづくり中小企業の優れた製品を認定する制度「大阪製ブランド」の認定を受けた。大阪府が認定品を

タペストリー 世界へ拡販

日本省力機械



紹介するイベントなどに取り上げられる可能性があり、認知度アップにつながる。

像などのタペストリーを展示し、欧米や中東のバイヤー、百貨店、家具販売業者などにアピールする。他の出展者とも関係を深め、販売構築を図る。

同展示会への出展は7年ぶり。より多くの色を使って表現力を高めた点をアピールし「技術力向上の成果を期待する」（同）。17

仁王像などのタペストリーを展示し、欧米や中東のバイヤーなどにアピールする（来年1月のパリの展示会でのブライズイメージ）

高級店にリアル感PR



年に開催した時にはイタリアのブランド・フエンディの幹部に富士山のタペストリーを売った実績もある。

輸入品に押されて国内業界が低迷したため織機を使って自らタペストリー生産に乗り出した。タペストリー事業の売上高を年間1000万円弱から26年3月期に5000万円に引き上げる。

「ネオタピス」のブランド名で展開するタペストリーの作品例